

令和3年度第1回港北高校学校運営協議会（書面開催） 議事録
（令和3年6月25日資料送付）

1 令和3年度港北高校学校運営協議員一覧

- 産業能率大学経営学部長・教授
松尾 尚
- 港北保護司会副会長・港北更生保護サポートセンター長
佐々木 貞貴
- 認定NPO法人びーのびーの事務局長
原 美紀
- 横浜保育福祉専門学校校長
加藤 孝夫
- 横浜市立大綱中学校校長
生出 宏
- 横浜市立太尾小学校校長
館 雅之
- 神奈川県立港北高等学校同窓会副会長
田村 千恵子
- 神奈川県立港北高等学校PTA会長
久保田 真也
- 神奈川県立港北高等学校校長
松崎 剛

<事務局>

- | | |
|--------|-------------------------|
| 三上 実 | 本校・副校長 |
| 浦 寿 | 本校・教頭 |
| 青柳 彰 | 総括教諭 活動支援グループ 開発・広報グループ |
| 関口 奈緒美 | 総括教諭 進路支援グループ |
| 阪本 宏児 | 総括教諭 学習支援グループ |
| 二瓶 信一 | 総括教諭 管理・運営グループ |
| 中根 賢 | 総括教諭 生徒支援グループ |
| 佐藤 麗奈 | 教諭 開発・広報グループ |

2 資料

- (1) 令和2年度 学校評価報告書実施結果
- (2) 令和3年度 学校評価報告書目標設定
- (3) 学校教育計画 令和2年度～5年度「4年間の目標」
- (4) 本校のランドデザイン
- (5) 令和3年度 不祥事ゼロプログラム
- (6) 学校要覧
- (7) 学校案内

3 意見及び改善策の提案について

【教育課程・学習指導】

- ・「授業力向上推進重点校」としての取組が実を結んできたのではないかと感じる。
- ・Google Classroomの活用は、教員－生徒双方にとって、こなれてきたように思う。
ICT化は教員個々の努力も重要だが、組織的な取り組み（教員間の能力ばらつきの克服等）がより重要である。ICTの活用を更に進めていくことで、教育の実践力が高まっていくのではないか。
- ・課題は、2年生の平日の家庭学習時間の平均時間がとても短いこと。自ら課題を見つけて、学習する力を身に付けてほしい。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実践については、引き続き精力的に進められているようで良かった。

【生徒指導・支援】

- ・新型コロナウイルス感染症で、悩みを抱えている生徒にメンタル面のサポートをしてほしい。
- ・一部生徒の常識的行動面、自転車による迷惑行為等がある。引き続き指導を。

【進路指導・支援】

- ・外部機関を活用することは必要。今後も活用できるものは積極的に進めるようにしたほうがよい。

【地域協働】

- ・順調に活動が進んでいる
- ・感染状況が落ち着いたら積極的に受入れ、体験の機会を生徒に供給したい。
- ・「渡れない橋」については、何らかの対応を考え、通学時に使えるようにできないか。

【学校管理・学校運営】

- ・HPについて、「学校生活」の頁のところは学生主体で発信するなど、デザインから作りこんでみるというのはいかがでしょうか。
- ・部活動加入率の高さと大学進学率の高さが文武両道で両立している。グランドデザインの主軸として、自学力の育成が明確なビジョンとなっていることが、保護者、地域など関係各所にも浸透してきたように思う。
- ・授業力向上研修会の回数が未達であったことは残念である。2021年度は仕切り直しで、強化の方向に向かうことを望む。

【その他】

- ・コロナ渦においても、前向きに学校運営に取り組んでおられる教職員の皆様に感謝します。同窓会としてお役に立てることを模索しております。
- ・神奈川県もまだまだコロナ渦の影響が心配ですが、今まで通り、生徒主体の教育を進めていただきたい。
- ・2021年も様々な制約が予想されるが、いかに新入生の港北高校への愛着度・満足度を上げるかが課題である。